

事例の指導経過（指導を行った事例）【記入例】

1. 区分

事例の タイトル	自己流で日常生活の管理(運動・服薬)を行う利用者への支援
-------------	------------------------------

事例のタイトルを記入してください

※基礎資格とは、介護支援専門員実務研修受講試験受験時の受験資格区分です。「看護師」「介護福祉士」「社会福祉主事」等

主任介護支援専門員 (受講者本人)	基礎資格	介護福祉士
	主な経験等	居宅介護支援事業所・地域包括支援センター
事例の担当者 (相談してきた人)	基礎資格	社会福祉士
	主な経験等	病院
相談のきっかけ	胸椎圧迫骨折退院後、服薬・リハビリに関して、同事業所の介護支援専門員が助言をしても、ご本人に受けいれてもらえず、困っていると相談を受けて対応することとなった。	
指導・支援した期間	令和 6年 9月 ～ 令和 7年 1月(約 4ヶ月間) ※「期間」とは期間中に複数回の指導・支援も含む	

どういう経緯で、誰から相談を受けて対応することになったのかを記載してください。

2. 事例担当者(相談してきた人)からの主訴・悩み(相談したい内容等)

既往に高血圧・糖尿病があり、転倒して胸椎圧迫骨折をした。腰痛・膝痛があるが、運動に関しては積極的に出かけるが、足のふらつきがあり、注意力に欠ける動作(急な動作・不安定な動作等)を行う。内服管理も自己判断で薬を止めたり、痛みが強くなると多量に服薬することがある。ご本人は「平気、平気」と聞き流し、家族やケアマネからの助言を聞かない。楽観的な性格・過信もあり、新たな怪我や体調悪化を懸念。助言を聞き流すため、対応支援について悩んでいる。

3. 主任ケアマネとしてケアマネに気付いて欲しいところ等

利用者に助言を聞き入れてもらえないと、もう手立てがないと直ぐに諦めてしまう。
なぜ、その利用者がそのような行動をとるのかを理解し、正論ではなく、聞く姿勢を持って利用者とは面談し、ご本人の認識や意向を聞くことが大切。また、利用者との関係性を築くことも重要。

4. 主任ケアマネとしてケアマネへの指導・支援に際し、ポイントとして考えたこと

利用者の行動の理由や背景、考えや意向を理解する為、利用者との十分な面談が出来ているか、関係性を築けているか、利用者主体の支援になっているか自身を振り返ること。地域ケア会議で多職種からの助言をいただいて、自分では気が付けない部分を知ってもらえればと考えた。

5. 指導経過を通じてケアマネが得た気づき等(ケアマネの変化等)

自信をなくしている担当ケアマネに対し、多職種からの意見を聞くことで、見えてこなかった対応策を知ることができた。自らの支援方法の見直しや、相談が出来る支援があることで、諦めずに利用者へ関わるできるようになった。

6. 指導経過を通じて主任ケアマネが得た気づき等(主任ケアマネの変化等)

悩んでいる時に、話を聞き、相談が出来る環境があることで、振り返りが客観的にでき、前向きに考えていく事が出来るため、相談しやすい体制作りと、自分の知識と経験の研鑽が必要と感じた。

7. 指導・支援に際し他の主任介護支援専門員に相談したい点等(演習での検討のポイント)

様々な経験値のケアマネに対し、困難事例を前向きに支援していくための指導方法。

※ 下記の内容ですと、詳細が不明のため、助言をどう行ったか、事業所内で何を話しあったか等、指導経過内容を細かく記入してください。用紙が足りない場合は、追加して記入してください。

8. 主な指導経過記録(適宜追加) ※下記「項目」……相談、助言・同行訪問・会議への同席等

年月日	項目	内容
R6.9.8	相談・助言	担当ケアマネから相談あり。考え方の助言を行った(→どう助言をしたか記入)
R6.9.20	訪問同席	ご家族も悩んでおり、服薬が安定しない。オーバードーズ気味になって、朦朧としている日が続く。訪問状況を確認し、医師に相談することを助言。(→内容を簡潔にまとめて記入)
R6.9.25	報告	医師から回答を得て、服薬に関しては次回の通院時に本人と家族に確認することのこと。
R6.10.1	訪問	息子さんから連絡。薬を過剰摂取しているの、来所して欲しいとのことで同行訪問。高血圧の薬は飲まずに、痛み止めを多量に摂取した状態だった。
R6.10.2	提案	多職種との個別ケア会議を行うことを、担当ケアマネに提案。
R6.11.10	会議へ同席	個別ケア会議に同席し、多職種から意見をいただく。薬剤師から現在、分包されているので一包化の提案をいただいた。PTから、下肢筋力の強化のため自宅で行える運動の提案がある。

R6.11.13	同行訪問	同行訪問し、個別ケア会議での内容をご本人と家族に報告。次回の通院時に、担当ケアマネが同行する事を提案。(何を助言したか→経過も記入)
R6.11.19	担当より報告	同行訪問し、医師に承諾を得て、本人が飲みやすいように錠剤に変更。ふらつきが少ない薬に変更していただく。
R6.12.1	担当より報告	服薬管理も安定し始めて、ふらつきもなくなり、調子がいいと機嫌がよくいつもと違うモニタリングが行えた。
R6.12.20	経過確認	少しずつ聞き入れてもらえるようになり以前より信頼関係が築けてきたとのこと。
R7.1.12	経過確認	通院時、同行して服薬や運動に関して、医師から説明をしてもらって調子もよく、関係も少しずつ良好になったということで指導を終了。(指導の終了経緯も記入していただく)